

關西貿易社創立証書  
并定款

本紙正誤

讀者先ッ此書中ニ就テ左ノ誤脱ヲ  
點正シ而シテ後瀏覽ヲ乞フ

丁數

行數

⊖ 枚

十二行

貫ハ責ノ誤

⊙ 枚

七行

松ハ杉ノ誤

全

十二行

丁目ニハ二丁目ノ誤

⊕ 枚

六行

享ハ亭ノ誤

三枚

一行

段ハ假ノ誤

六枚

九行

讀ハ續ノ誤

全

十二行

婿ハ婚ノ誤

七枚

一行

於ノ下ニテチ脱ス

十三枚

一行

周ハ週ノ誤

十五枚

三行

數ハ數ノ誤

全

四行

應シノ下ニ發言ノ二字チ脱ス

十六枚	七行	〇ハ衍
十七枚	十行	第ナ脱ス
十九枚	四行	一名ハチ総ヘノ誤
全	六行	任ノ下ニトチ脱ス
廿三枚	一行	給ハ級ノ誤
廿六枚	一行	長ハ員ノ誤
廿七枚	五行	總會ハ總監ノ誤
廿九枚	九行	増殖ハ増加ノ誤
卅四枚	三行	ノハチノ誤
卅二枚	九行	各ハ否ノ誤
卅五枚	十二行	於ノ下ニテチ脱ス
全	全	ト做シハト見做シノ誤

關西貿易社定款

當社定款ヲ分テ左ノ二十款トス

第壹款	株式之事
第二款	株式金割拂之事
第三款	株式賣渡之事
第四款	株式讓渡之事
第五款	株式沒収之事
第六款	資本增加之事
第七款	總會議事
第八款	總會處務ノ事
第九款	株主投票發言之事
第十款	在遠國社員代理權委任ノ事

- 第十一款 役員ノ事
- 第十二款 役員月給ノ事
- 第十三款 役員權限ノ事
- 第十四款 役員選舉ノ事
- 第十五款 役員交替ノ事
- 第十六款 監督部會ノ事
- 第十七款 益金配當ノ事
- 第十八款 勘定ノ事
- 第十九款 會計檢査ノ事
- 第二十款 通報ノ事

關西貿易社創立証書

- 第一條 當社ノ社名ハ關西貿易社ト稱ス
- 第二條 當社ノ本店ハ大阪府西區靱北通壹町目貳十三番地ニ設置ス可シ
- 第三條 當社營業ノ目的ハ海外貿易ニ從事スルニ在リ但歐米各國ニ輸送スル貨物ハ專ラ他人ノ依托セルモノヲ販賣シ亞細亞地方ハ他人ノ依托品ヲ賣買シ或ハ自己ノ貨物ヲ賣買スルヲアル可シ
- 第四條 當社營業ノ年限ハ開業ノ日ヨリ滿十五年トス但滿期ニ至リ株主ノ決議ニ依テハ之ヲ繼續スルヲアル可シ
- 第五條 當社々員ノ責任ハ有限ニシテ株金ノ外各自ノ資

財ニ及サルモノトス

第六條 當社ノ資本金ハ壹百萬圓ト定メ之ヲ壹萬株ニ分  
ナ即チ壹株ヲ壹百圓トシ此内五千株ハ發起人ニ於テ之  
ヲ引受ケ残り五千株ハ廣ク有志者ヨリ募集スルモノト  
ス

第七條 茲ニ載名スル各員ハ此創立証書ノ旨趣ニ基キ當  
社ヲ設立セシメテ希望シ各々株數ヲ引受其出金ヲ約定  
スルコト左ノ如シ

株數	屬籍	住所	姓名
四百株	慶島縣士族	大阪府西區靱北通 壹丁目	五代友厚
四百株	大阪府平民	全ノ全 東區鱧谷東 ノ全 東區南久太 郎町二丁目	住友吉左衛門 廣瀬宰平 杉村正太郎

三百株	全	了全 東區今橋二 丁目	中野悟一
三百株	全	了全 東區今橋二 丁目	鴻池善右衛門
三百株	全	二全 東區高麗橋 二丁目	三井元之助
三百株	全	全 南通二丁目 西區西長堀	門田三郎兵衛
三百株	京都府平民	京都府上京區第二 十八組役行者町	阿部彦太郎
二百五十株	大阪府平民	大阪府唐物町二丁 目	山口吉郎兵衛
二百五十株	岡山縣士族	岡山縣岡山 舟町	松山岩三郎
二百株	大阪府平民	大阪府東區北濱四 丁目	平瀬龜之助
二百株	全	三全 西區靱上通 三丁目	田中市兵衛
二百株	岡山縣士族	岡山縣備前國兒島郡 吹上村	荻野徳郎
百五十株	大阪府平民	大阪府東區高麗橋 一丁目	藤田傳三郎
百五十株	全	全西區靱上通 二丁目	金澤仁兵衛

百株	全	三丁目	東區伏見町	芝川	又平
百株	山口縣十族	全五丁目	北區中之島	高須	謙三
百株	大阪府平民	全	西區北堀江	富岡	半兵衛
百株	全	全	東區大川町	永見	米吉郎
百株	全	三丁目	東區今橋	原	嘉助
百株	愛媛縣平民	全	北區四丁目	吉	良享亭
百株			西區江戸堀		
百株					
百株					

右ノ証佐トシテ各自姓名ヲ記シ調印致候也  
 明治十四年五月 日 發起人

關西貿易社定款

第壹款 株式ノ事

第一條 凡ソ當社ノ株主タラント欲スル者ハ其所望ノ株數ヲ記シタル請求書ニ記名調印シテ之ヲ當社ノ本店ニ差出シ本社ニ於テ其株式ノ分與ヲ承諾スル時ハ則チ此定款ニ遵ヒ株主トナリテ其引受タル株數ニ應シ出金スヘキヲ約諾シタル者ト見做ス可シ

第二條 數人申合セ一株以上ノ株式ヲ共有セント欲スル者ハ其請求書ニ連名調印シテ第一條ノ手續ヲ履ムヘシ而シテ株金ヲ拂込ニ並ニ配當ヲ受取ルベキ一人ヲ豫定シ置ク可シ

但株券ニハ其共有タルヲ明記スベシ

第三條 當社ノ株主タルモノハ其引受ケタル株數一箇ニ付左式ノ假株券一通ツ、ヲ受領スルヲ得可シ

關西貿易社假株券

第 号

壹株 金百圓也

内金	圓	月	日	拂込	内金	圓	月	日	拂込
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同
内金	圓	月	日	同	内金	圓	月	日	同

何某儀當關西貿易社ノ創立証書及ヒ定款ヲ確守シ明治十四年 月 日ヨリ當社資本ノ内一抹ノ持主タル

1 相違ナキ證據トシテ此段株券ニ當社ノ社印ヲ鈐シ之ヲ付與スルモノ也

關西貿易社々長

年 月 日 何 某 印

同 理事

何 某 印

第貳款 株金割拂ノ事

第四條 社長ハ監督部ノ決議ニ遵ヒ一ケ月前ニ各株主ノ拂込ムベキ金額ヲ定メテ通達スヘシ而シテ各株主ハ社長ノ指定スル時日ト場所トニ於テ之ヲ拂込ムヘシ若シ此出金ノ期ヲ怠タルトキハ其之ヲ怠タリタル間相當ノ利子ヲ拂ハシム可シ

第五條 株主ノ都合ニ依リ其株數ニ應シ割拂スヘキ金額ノ外殘金ノ全額又ハ若干ヲ前拂スルモノアル時ハ監督部ノ決議ニ依リ其前拂ノ金額ニ對シ利子ヲ附スルトアルベシ尤トモ利子ノ割合ハ社長ト其株主ノ協議ニ任スベシ

第六條 第一次ノ割拂ヲ爲シタルキハ其拂入タル金高ヲ假株券ニ記入シ第二次以後順次ニ之ヲ記入シ若シ株主假株券ヲ持參セサルキハ其拂入タル金高ノ請取証書ヲ交付シ置キ追テ假株券ニ之ヲ記入ス可シ

第七條 株金ノ全額拂濟ニ至ルキハ假株券ト引換ヘ本株券ヲ交付スヘシ

第八條 若シ株券ヲ磨損スルカ或ハ紛失スルキハ貳名以

上ノ証人ヲ立テ其事實ヲ証明スルニ於テハ相當ノ手数料ヲ請取更ニ新券ヲ交付スベシ

第三款 株式賣渡ノ事

第九條 株式賣渡ヲ爲スニハ左式ノ証書ニ賣買主双方連署シ之ニ株券ヲ添ヘ本社ニ差出シ相當ノ手数料ヲ収メテ株帳ニ記入ヲ請フヘシ右記入ヲ經サル間ハ賣渡人ヲ以テ右株式ノ所有主ト見做スヘシ

株式賣渡証書

關西貿易社株式ノ内第 号ノ株式何某所有之分今般何某へ賣渡候處實正也然ル上ハ向後右買受人ハ勿論其相續人ニ至マテ都テ賣渡人同様約定可相守候也

年 月 日

賣渡人

何

某



關西貿易社々長

買受人

何 某

何 某 殿

第十條 所有ノ株式ヲ賣渡サントスル社員若シ本社ニ負債アルハ其賣渡ノ記入ヲ拒ムコトアルヘシ

第十一條 毎年定式總會ヲ開ク日ヨリ前二週間ハ株式賣渡又ハ讓渡ノ記入ヲ爲サ、ルモノトス

第四款 株式讓渡ノ事

第十二條 當社ニ於テハ死者ノ株式所有ノ權ハ其相續人ニ相傳スルモノト見做スヘシ

第十三條 株主ノ死去又ハ身代限リニ依リ又ハ株主女子ニシテ婿嫁セシニ依リテ其株式所有ノ權ヲ讓受ケタル者

續

其事實ヲ証明スルコト於ハ之レヲ株主トシテ當社ノ株帳ニ記入スヘシ

第五款 株式沒收ノ事

第十四條 社長ヨリ通達セシ期日ニ至リ株主其割拂ノ金額ヲ拂込マサルハ之レカ爲メ生シタル費用ト利子トヲ合テ速ニ拂込ムヘキ旨ヲ社長ヨリ催促スヘシ

第十五條 株主ニ於テ割拂及ヒ利子費用ヲ仕拂フヘキ催促ヲ受クルト雖モ猶之ヲ怠タルハ監督部ノ決議ニ依リ其株式ヲ當社ニ沒收スルコトヲ得ヘシ

第十六條 右ノ手續キテ經テ沒收シタル株式ハ之ヲ當社ノ所有物トシ株主總會ノ決議ニ依リ賣却ノ處分ヲ爲スヘシ  
第十七條 其株式ヲ沒收セラレタルモノト雖モ沒收ノ日

迄ニ其株式ニ應シ拂込ムヘキ割拂ノ金額ハ猶之ヲ出金  
スルノ責ニ任ス可シ

第十八條 監督部ノ決議ヲ以テ其株式ヲ沒収シタル始末  
書ハ其株式ニ關係アル人々ニ對シ十分ナル證據タルヘ  
シ而シテ此始末書ト株式ノ代價受取書トハ完全ナル所  
有權ヲ成スモノナルヲ以テ本社ヨリ更ニ株式買受人ニ  
其持主タルノ證書ヲ附與スベシ然ル上ハ此買受人ヲ正  
當ノ株主トシテ其買受以前ニ係ル割拂ハ都テ既納ノモ  
ノト看做シ自後右買受タル株式ニ就キ何様ノトアルト  
モ其所有權ヲ妨碍スル所ナカルベシ

第六款 資本増加ノ事

第十九條 監督部ハ株主總會ノ決議ヲ經テ新株ヲ發行シ

本社ノ資本ヲ増加スルコトヲ得ヘシ右増額并ニ壹株ノ金  
高ハ總會議ノ指定ニ由ルベシ

第廿條 新株ノ發行ニ依リ募集シタル資本ハ即チ從來有  
ル所ノ當社資本ノ一部ト見做スカ故ニ其割拂并ニ株數  
ヲ引受ケタル人ニ於テ其出金ヲ怠ル時株式ヲ沒収スル  
等ニ關スル手續ハ最初發行ノ株式ト同様タルベシ

第七款 總會議ノ事

第二十一條 第一次ノ常式總會ハ本社開業ノ後六ヶ月以  
内ニ監督部ノ確定シタル時日ト場所トニ於テ之ヲ開設  
スベシ

第二十二條 第二次以後ノ常式總會ハ當社總會ニ於テ議  
決シタル時日ト場所トニ於テ開設スベシ

第二十三條 前條々ニ記スル總會ヲ常式總會ト稱シ其他ノ惣會ハ都テ臨時總會ト唱フベシ

第二十四條 監督部ニ於テ臨時惣會ノ議決ヲ要スル時又ハ惣社員五分ノ一以上ノ請求ニ應シ何時ニテモ臨時惣會ヲ開クベシ

第二十五條 株主ニ於テ臨時惣會ヲ開カントテ要スル時ハ其目的ヲ記スル要求書ヲ當社ノ本店ニ差出スベシ

第二十六條 監督部ハ前條ノ要求書ヲ領収セハ速ニ臨時惣會ノ招集ニ着手スヘシ若シ監督部ニ於テ要求書ヲ受取タル日ヨリ三週間以内ニ開會ノ手續ヲ爲サ、ル時ハ開會ヲ要求シタル社員又ハ其他定數以上ノ社員自ラ臨時惣會ノ招集ヲ爲スヲ得ヘシ

第八款 總會處務ノ事

第二十七條 凡ソ總會ヲ開カントスル時ハ其集會スヘキ場所ト日時ヲ招狀ニ記載シ且格別ノ事件ヲ議セントスル時ハ議事ノ大要ヲモ併記シ少クモ二週間前ニ之ヲ株主一同ニ送致スベシ右ノ手續ヲ履ミタル上ハ假令株主ノ中ニ右招狀ヲ受領セザルモノアリト謂フトモ總會ノ事務ヲ處スルニ於テ更ニ差支ナキモノトス

第二十八條 臨時總會ニ於テ處分シタル事件ハ都テ特別ノモノト見做シ又常式總會ニ於テ處分シタル事件ト雖モ益金配當ノ承諾ニ係ル件及勘定書資産責任一覽表并ニ監督部ヨリ出ス所ノ通常報告ヲ檢閲審案スルノ外同ノ特別ノモノト見做スベシ

第二十九條 總會開設ノ時ニ方リ出席ノ社員定數ニ滿タ  
 カレハ益金配當告示ノ一件ヲ除クノ外何等ノ事務タリ  
 トモ之ヲ處ス可カラス茲ニ其定數ヲ確定スルニ例ヘハ  
 總會開設ノ際當社ノ株主タルモノ十名ヨリ多カラサル  
 時ハ五名ヲ以テ其定數トシ若シ十名以上五十名迄ナレ  
 ハ五名毎ニ一名宛ヲ加ヘ五十名以上ナレハ十名毎ハ一  
 名ヲ加フヘシ

但株主ノ人員百名以上ニ進ムト雖モ其定數ハ二十名  
 ニ超ユヘカラス

第三十條 社員ノ要求ニ應ジ開ク所ノ總會ニ方リ各社員  
 其出席スヘキ定刻ヨリ二時間ヲ過キテ猶定數ノ人員ニ  
 充タサルモハ直ニ之ヲ解散シ若シ其他ノ總會ナレハ次

周ノ同日迄延會シテ前同所同時ニ再ヒ之ヲ開クヘシ而  
 シテ猶定數ニ充タル時ハ其會ヲ放擲シタルモノトス

第三十一條 總監又ハ副總監ハ社員總會ノ議長タル可シ  
 若シ正副總監開會刻限ニ至リ臨席セサル時ハ出席ノ社  
 員中ヨリ議長ヲ撰フ可シ

第三十二條 議長ハ總會ノ承諾ヲ得テ其會期ヲ延ヘ且ツ  
 會場ヲ換ユルヲ得ヘシ然レモ其延期シタル惣會ニ於  
 テハ未決ノ事件ヲ議スルノ外他ノ議事ニ涉ルヲ得ス

第三十三條 總會ニ於テハ出席ノ社員少クトモ五名以上  
 ニテ指名ノ可否決ヲ要請スルニアサレハ議長ハ通常ノ  
 方法ニ依リ可否ノ決議ヲ惣會ニ口達シ之ヲ議事要録ニ  
 記入スルヲ以テ其決議ノ証據トナシ別ニ可否投票ノ兩

數ヲ區分シ之ヲ登錄シ決議ノ証ト爲スニ及ハサルモノトス

第三十四條 議長ハ五名以上ノ社員ニ於テ指名ノ可否決  
ヲ要請スルヲアレハ其所要ノ可否決ヲ取り其結果ヲ以  
テ總會ノ決議トスヘシ若シ可否同數ナル時ハ議長自ラ  
投票シテ之ヲ決スヘシ

第九款 株主投票發言之事

第三十五條 各社員ハ其所有スル株式一箇ヨリ十箇迄ハ  
一株毎ニ一箇ツ、ノ投票ヲ爲シ十一箇以上百箇迄ハ五  
株毎ニ二箇ツ、ヲ増加シ百一箇以上ニ至レハ十株毎ニ  
壹箇ツ、ヲ増加スベシ

第三十六條 若シ株主幼弱ナルカ或ハ狂癲白痴ノ類ナル

ルハ後見人或ハ其他正當ナル代理人ヲ以テ發言投票セ  
シムルヲ得ベシ

第三十七條 一名以上申合セ一箇或ハ數箇ノ株式ヲ共有  
スル者ハ預メ定メタル株金拂込人ニ限リ株式ニ應シ投  
票スルノ權アルモノトス

第三十八條 本社ニ拂入ルベキ割拂ノ金額ヲ皆濟シタル  
社員ニ非ラサレハ發言投票ノ權ナカルベシ又株式ヲ買  
受タルニ由リテ社員トナル者ハ總會開設前三ヶ月間右  
株式ヲ所有スルニ非ラサレハ同シク發言投票ノ權ナカ  
ルベシ

第三十九條 若シ社員自身會議ニ臨マサルルハ名代人ヲ  
以テ投票セシムルヲ勝手タルベシト雖モ其名代人ハ當

社ノ株主ニ限ルモノトス而シテ社員其名代ヲ托スル時  
ハ委任狀ヲ附與スベシ又他ノ一會社ノ名義ヲ以テ當社  
ノ社員タルキハ委任狀ニ其社印ヲ鈐シ一名以上ノ役員  
之ニ連署スベシ

第四十條 名代人ヲ差出ス時ハ總會開設ノ日ヨリ三日前  
ニ委任狀ヲ當社ノ本店ニ差出スベシ

但其委任ノ期限ハ十二ヶ月ヨリ永キヲ得ス

第四十一條 名代人ヲ命スル委任狀ハ左式ノ通タルベシ  
發言投票委任狀

拙者儀關西貿易社惣會ニ於テ何箇投票ノ權有之候處今般  
同社員中何某ヲ以テ名代人ト致シ明治何年 月 日ヨリ  
何年 月 日迄ニ開設スル惣會ニ出席シ拙者ニ代リ發

言投票爲致候依テ此旨委任候也

明治 年 月 日

何 某

第十款 在遠國社員代理權委任ノ事

第四十二條 當社ノ株主ニシテ其身遠國ニ在ル者ハ其望  
ミニヨリ在大坂株主ノ内ヲ以テ其代理人トシ株金割拂  
ノ出金ヲナシ其受取証若シハ株券ヲ領収シ或ハ株式賣  
買ノ手續ヲ爲シ又ハ配當金ヲ受領セシムルヲ得ヘシ  
且右代理人ハ他ノ社員同様當社本店ニ就テ會計簿ヲ檢  
査スルノ權アルモノトス

第四十三條 株主ニ於テ前條ノ代理人ヲ命スルキハ其委  
任狀ヲ當社ノ本店ニ差出シ置キ其代理權ヲ解カントス  
ル時ハ其旨ヲ届出ヘシ

第四十四條 代理權ノ委任狀ハ左式ニ法リ委託本人并ニ証人ノニ記名調印スベキモノトス

代理委任狀

關西貿易社株主何某儀今般同社員何某ヲ以テ代理人ト致シ〔株金割拂ヲ爲シ株券ヲ受領シ〕又ハ配當金ヲ受取り其他云々ノ件〕ヲ委任致候然ル上ハ右代理人ノ承諾舉行シタル事件ハ委託本人ノ爲セシモノト同様一切其責メニ任ス可ク候也依テ委任狀如件

年 月 日  
本人 何 某  
代人 何 某  
証人 何 某

關西貿易社々長  
何 某 殿

第十一條 役員之事

第四十五條 當社ノ役員職制ハ左ノ如シ

總 監 一 名

總株主ニ代テ副總監以下一名社務ヲ監視シ株主總會ニ於テ決スヘキ事件ヲ除クノ外總株主ニ代テ社長ノ稟請顧問ニ決答スルヲ任シ又六級以上ノ俸給ヲ進退スルヲ得

副總監 便宜之ヲ置ク

總監ノ職務ヲ輔ケ總監事故アル時ハ其代理ヲ爲スヲ得

監 督 若干名

總監ノ職務ヲ輔ケ社務ヲ監視スルヲ任トス

社長 一名

第一 定款ニ據リ諸員ヲ使役シテ社務ヲ總理シ各支店ニ命令ヲ下シ貨物賣買ノ機ヲ定メ資財運轉ノ道ニ注目シ本社盛衰ノ責ニ任ス

第二 支配人及課長ノ任職適否ヲ案シ監督部ニ稟請シテ之ヲ轉免シ一等手代以下ハ之ヲ進退スルヲ得

第三 准六級以下准十一級以上ノ俸給ハ其人ノ功績勤惰ヲ察シ監督部ニ稟請シテ之ヲ昇降シ十二級以下ハ之ヲ裁斷スルヲ得

副社長 便宜之ヲ置ク

社長ノ職務ヲ輔ケ社長事故アルハ其代理ヲ爲

理事 若干名

ス一ヲ得

社長ノ職務ヲ輔ケ一切ノ社務ニ參與シ監督及社長ノ命ヲ帶ヒテ臨時派出員トナリ或ハ支店長ヲ兼ヌルヲ得

賣買課長 副課長

通信課長 副課長

出納課長 副課長

勘査課長 副課長

庶務課長 副課長

社長ノ命ヲ受ケ各其課員ヲ率ヒ主務ヲ幹理シ級外員ノ俸級ヲ昇降スルヲ得



賣買方 自一等至七等  
 通信方 自一等至七等  
 出納方 自一等至七等  
 勘査方 自一等至七等  
 庶務方 自一等至七等

各其課長ノ指揮ヲ受ケ主務ニ従事ス

第十二款 役員月給之事

第四十六條 役員ノ月給ハ職任ノ高下ニ附從セス全ク特  
 別ノモノトシ其事務ノ繁閑或ハ其土地諸色ノ高  
 低ニ依リ或ハ其人ノ勤惰ニ由テ之ヲ昇降スルモ  
 ノトス故ニ社長理事ノ如キ重役ト雖モ其事由ア  
 ルニアラサレハ上級ヲ與ヘス適宜ノ給額ヲ定メ

之ヲ與フ可シ今其ノ俸給ヲ立ツル左ノ如シ

一級	准一級	二級	准二級	三級
百五十圓	百廿五圓	百圓	九十圓	八拾圓
准三級	四級	准四級	五級	准五級
七十圓	六十五圓	六十圓	五十五圓	五十圓
六級	准六級	七級	准七級	八級
四十五圓	四十圓	三十八圓	三十五圓	三十二圓
准八級	九級	准九級	十級	准十級
三十圓	二十八圓	二十五圓	二十二圓	二十圓
十一級	准十一級	十二級	准十二級	十三級
十八圓	十六圓	十四圓	十二圓	十三圓
准十三級	十四級	准十四級	十五級	准十五級
九圓	八圓	七圓	六圓	五圓

(以下級外)

第四十七條 監督部員ニハ月俸ヲ給セス年々役員賞與金  
 ノ内ヨリ若干ノ報酬金ヲ分テ之ヲ付與スベシ

第十三款 役員權限之事

第四十八條 當社ノ常務ハ副社長理事ノ參與ヲ以テ社長

其可否ヲ決シ之ヲ行フヲ得但通常ノ事務ト雖モ其關係  
 ノ大ルモノト見ルモ之ヲ監督部ニ稟議スヘシ  
 第四十九條 新ニ事ヲ起シ或ハ新ニ賣買ノ道ヲ開クイ  
 ルモハ社長ハ監督部ノ會議ヲ促シ其議決ヲ經テ之ヲ行  
 フヲ得

第十四款 役員選舉之事

第五十條 當社創立証書届ケ濟ノ上株主現員ノ總會ヲ開  
 キ投票ヲ以テ監督若干名ヲ選舉シ又監督中互ノ投票ヲ  
 以テ總監副總監社長副社長理事ヲ選舉シ猶ホ株式引受  
 人滿員ニ至リテ更ニ改選スベシ

第五十一條 五十株以上ヲ所有スルモノニアラサレハ監  
 督ノ選ニ當ルヲ得ス

第五十二條 身代限リノ處分ヲ受クル者及當社ト取引約  
 定ヲナシ其損益ニ關スル業ヲ營ムモノハ監督ノ選ニ當  
 ルモ之ヲ辭スベシ尤モ現ニ當社ノ監督又ハ社長理事タ  
 ルモノ當社ト取引約定ヲ爲シ又ハ當社ノ委託ヲ受ケ工  
 事ヲ爲ス他ノ會社組合ノ一員タリト雖モ之レカ爲ニ其  
 職ヲ辭スルニ及ハス但シ其約定工事ノ可否ニ付發言ス  
 ルヲ得ス

第十五款 役員交替ノ事

第五十三條 當社ハ毎年常式總會ニ於テ監督部員并ニ社  
 長副社長理事ノ内順番ヲ以テ三分ノ一ヲ退任セシメ之  
 カ後任ヲ選舉スベシ但シ退任ハ豫メ其順番ヲ定ダメ置  
 シヘシ

第五十四條 右退任シタル社長ト雖ヒ再ヒ選舉ニ當ルハ猶其職ヲ勒續スルモノトス

第五十五條 當社ハ總會ノ決議ニ依リ監督部員社長副社長理事ノ數ヲ増減シ其交替法ヲ定ムルヲ得

第五十六條 監督部員社長副社長理事ノ内事故ヲ生シ欠員アルハ監督部ニ於テ其代任ヲ選舉ス可シ尤モ其當選者ノ任期ハ其欠員ノ任期ニ過ク可ラス

第五十七條 當社ハ總會ノ特別決議ニ依リテハ退任期滿前ト雖ヒ監督部員社長副社長理事ノ任ヲ解キ其代任ヲ選舉スルヲ得ヘシ但其當選者ノ任期ハ解任セラレタル者ノ任期ニ過クヘカラス

第十六款 監督部會之事

第五十八條 監督部ハ處務ノ宜キヲ得ル爲部會ヲ開キ且

ツ其適當ト思考スルニ隨ヒ其會議ヲ延シ又ハ會議ノ規則ヲ立ツルヲ得ヘシ而シテ事務ヲ處スルニ欠ク可カラサル定數員ヲ定ムルヲ得

第五十九條 部會ニハ總會ヲ以テ會頭ト爲スヘシ若シ總監出席ナキハ副總監ヲ會頭ト爲スヲ得

但副總監出席ナキ時ハ監督部中ニテ會頭ヲ撰ムベシ第六十條 監督部ハ其部中ノ一人又ハ數人ニ委任シテ事ヲ行ハシムルヲ得

第六十一條 部會或ハ監督ノ行フタル事件ハ其之ヲ行フタル後監督選舉方ニ不完全ナル所アルカ又ハ監督タル能ハサルノ廉アルヲ查出セシアルニ拘ラス都テ之ヲ

有効ノモノトスヘシ  
第十七款 益金配當之事

第六十二條 當社益金ノ内ヨリ役員ノ月俸旅費雜費等營業上必用ノ入費ヲ引去リ其殘額ヲ以テ純益金トシ毎年二月當社總會ノ決議ヲ經テ之ヲ配當スルコト左ノ如シ  
純益金若干圓

内

金若干圓

地所家屋代及建築費創業費消却并ニ所有貨物直合豫備積立金 直合豫備金トハ所有ノ貨物若シ元價ヨリ低豫メ積置フ  
金若干圓

別途積立金 別途積立金ハ當社ノ營業ヲ確實ナラシメノ損失ヲ被ルカ爲メ此積立ノ法ヲ設ケ將來金ハ全ク株主ノ所有ニ屬スルモノニシテ豫備金トシテ此積立金目餘リ  
ニ株高ニ應シ分賦スヘシ更

差引

金若干圓

是ハ株數ニ應シテ配當ス可キ金圓ナリ但此内ヨリ役員賞與金トシテ其幾分ヲ割與スベシ  
蓋シハ賞與金事務ニ勉勵シテ本社ノ利益増  
加スルハ社員ノ賞與金モ増加シテ株主ノ利益モ  
亦增加ス故ニ役員ヲ主ノ利益ニ勉勵セシムルニ  
シハ須ク役員ヲ主ノ利益ニ勉勵セシムルニ  
其賞與金并ニ配當金ノ割合ハ左ニ例スルガ如シ  
第一例 此配當スヘキ金高チ十萬圓ト假定スルハ資本

金百万圓ニ對シテ一割ノ利益トス 積立金ノ 二口除ク 然ルルハ十  
万圓ノ一割即一万圓ヲ以テ役員賞與金トシ其殘額即九  
万圓ヲ株數ニ配當スヘシ

第二例 此配當スヘキ金高二十万圓ナルルハ資本金ニ對  
シテ二割ノ利益トス即二十万圓ノ二割四万圓ヲ賞與金  
トシ其殘額十六万圓ヲ株數ニ配當スルモノトス

第三例 此配當スヘキ金高三十万圓ナルルハ資本金ニ對  
シテ三割ノ利益トス即三十万圓ノ三割九万圓ヲ賞與金  
トシ其殘額二十一万圓ヲ株數ニ配當スベシ

右三例ニ準シ其餘ノ割合ヲ立ツ可シ

第六十三條 當社營業上ヨリ生スル純益金ノ外決シテ配  
當ヲ爲スヘカラス

第六十四條 若シ社員株金割拂其他ノ勘定ニ就キ當社ニ  
負債アルルハ監督部ハ社員ニ渡ス可キ配當金ノ内ヨリ  
其負債高ヲ差引クヲ得ヘシ

第六十五條 配當ノ報告ハ後條ニ從ヒ之ヲ各社員ニ與フ  
ヘシ而シテ其報告ヲ與ヘタルノ後三ヶ年ノ間配當金ヲ  
請求スル者ナキ分ハ之ヲ當社益金ノ内ヘ没入スルヲ得  
ヘシ

第六十六條 配當金ニ付テハ當社ニ對シテ其利子ヲ請求  
スルヲ得ス

第十八款 勘定之事

第六十七條 社長ハ當社所持ノ貨物收入支出ノ金高并ニ  
當社ノ資産責任等ノ帳簿ヲ備置キ相當ノ制限ト時間ト

ヲ定メ各社員ノ覽閱ニ供スヘシ  
第六十八條 當社ノ勘定ハ一ケ年ヲ以テ結算ヲ爲シ資產責任明細書并ニ收入支出損益勘定書ヲ製シ之ヲ翌年二月ノ總會ニ出示シ其認定ヲ請フヘシ

第六十九條 毎年配當高ヲ定ムル惣會ノ前社長ハ資產責任一覽表ヲ製シ之ヲ印刷シテ各社員ニ送達スヘシ

第十九款 會計檢査之事

第七十條 本社ノ勘定ハ少クトモ毎年一回ツ、二名以上ノ檢査役ニ於テ之ヲ檢査シ資產責任一覽表ノ正各ヲ勘定スヘシ

第七十一條 初次ノ檢査役ハ監督部ニ於テ社員中ヨリ之ヲ選命シ以後ノ檢査役ハ常式惣會ニ於テ選舉スルモノ

トス

第七十二條 通常ノ社員ハ檢査役トナルヲ得ルト雖モ本社營業事務ニ關係アルモノハ其任ニ當ルヲ得ス又監督其他ノ諸役員其在役ノ間ハ檢査役ノ選ニ方ル可ラス  
第七十三條 初次ノ檢査役ニ給スヘキ報酬金額ハ監督部ニ於テ之ヲ定メ以後選任スル檢査役ノ報酬金ハ惣會ニ於テ之ヲ議定スヘシ

第七十四條 社員ハ幾回ニテモ檢査役ノ選ニ中ルヲ得ヘシ若シ現任檢査役ノ内ニ缺員アルハ監督部ヨリ直ニ臨時總會ヲ召集シ補缺員ヲ選舉セシム可シ

第七十五條 各檢査役ハ本社ノ資產責任一覽表ノ寫ヲ受領シ之ヲ會計簿并ニ諸証書ニ照合シテ逐一檢査スヘシ

第七十六條 各検査役ハ當社所用ノ帳簿目錄ヲ受領シ當社營業時間ハ何時ヲ論セス其帳簿并ニ勘定書類ヲ点檢スルヲ得ベシ又會計検査ノ爲メ當社ノ入費ヲ以テ其適當ト思考スル補助員ヲ使用スルヲ得ヘシ且會計ニ關スル事件ハ之ヲ監督部并ニ諸役員ニ質疑スルノ權アルモノトス

第七十七條 検査役ハ資産責任一覽表并ニ會計ニ關シ社員一同ニ報告ヲ爲ス可シ此報告ニハ上述ノ一覽表ハ原簿ニ據テ調製シタル者ニシテ正シク營業事務ノ實況ヲ表スルモノナルヤ否ヲ鑑別シテ其意見ヲ記載シ且監督部諸役員ニ就テ其告知ヲ要シタル件并ニ検査役ヨリ質疑シタル件ハ孰レモ其辨明ニ於テ満足ナリト思惟スル

ヤ否ヲ併記シ監督部ノ報告ト共ニ之ヲ常式惣會ニ於テ朗讀セシムヘシ

第二十款 通報之事

第七十八條 凡ソ當社ヨリ株主ニ對シテ通報ヲ要スル時ハ之ヲ本人ニ直達スルモ或ハ郵便ニテ其住所ヘ送達スルモ都テ當社ノ便宜ニ任ス可シ

第七十九條 數人申合セ一株以上ヲ共有スル社員ニ通報ヲ爲スルハ此定款第二條ニ記入スル如ク前以テ定メ置キタル者ヘ通達スヘシ

第八十條 凡ソ通報ヲ爲スニ郵便ヲ用テスルハ通常郵便ノ手續ニ由リ本人ニ到達スヘキノ時限ヲ以テ當社ニ於ハ既ニ通報ヲ爲シタルモノト傲シ而シテ右通報書ニ

正シク住所宛名ヲ記載シ郵便規則ヲ履ミテ之ヲ送付シ  
タル事實アルヲ以テ充分ナル証據トスベシ

右之條々發起人ノ衆議ヲ以テ相定其証據トシテ株主一同  
記名調印致候也

年 月 日



.....

本資料は、大阪商工会議所所蔵の「五代友厚関係文書」収録資料のうち、お問い合わせの多いものを抜粋し公開するものです。

資料を複製使用する場合は、あらかじめ申請書を提出し許可を受けていただく必要があります。

手続きにつきましては、下記事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

【事務局】大阪商工会議所 大阪企業家ミュージアム

〒541-0053 大阪市中央区本町 1-4-5 大阪産業創造館 B1F

TEL 06-4964-7601 FAX 06-6264-6011

[museum@osaka.cci.or.jp](mailto:museum@osaka.cci.or.jp)

.....